

金融教育フェスティバル（第2分科会）
秋芳町立八代小学校金銭教育実践事例



H17. 11. 26

金融教育フェスティバル

（於 東京ビッグサイト）

秋芳町立八代小学校

教諭 岩本 政彦

1. 事例のテーマ
投資をもとにした農作物の生産と販売活動を通して学ぶ金銭教育
2. 事例の位置付け
 - (1) 実施学年、教科等
◎5、6年生（5年生2名、6年生3名 計5名） 総合的な学習の時間
 - (2) 単元名
修学旅行のお小遣いを自分たちの手でつくりよう
3. ねらい
 - (1) 農作物の生産から販売までの活動を通して、経済の仕組みを学ぶと共にお金を得ることの難しさやおもしろさなどを体験し、お金の意味や価値について気づくことができるようにする。
 - (2) 投資による活動を体験することにより、返済等の社会的な責任を体感できるようにする。
4. 展開の特色
 - ・農産物の生産と販売による経済活動体験
 - ・農産物の生産から販売、返済までに起こるさまざまな課題の解決学習
 - ・投資等による社会的責任の体験
 - ・全活動を通して学ぶ金銭教育（お金の意味や価値の学び）
5. 構成

第1次	プランを立てよう	3時間
第2次	畑に作物の苗や種を植えよう	2時間
第3次	作物を育て、管理しよう	6時間
第4次	販売プランを立てよう	3時間
第5次	収穫、販売大作戦	4時間
第6次	活動を振り返り、お金の意味や価値を考えよう	2時間
6. 主な活動内容（実践例）
 - (1) プランを立てよう

◆学びの動機と学びのゴール

在来の交通機関を利用しての一泊二日の修学旅行 経費、一人およそ16,500円
その上、小遣いを加算すると・・・

児童の反応
お金を出してくれる
母さんたちが大変だ。

投資してもらったお金をもとにして、自分たちの手で修学旅行のお小遣いをつくりよう。

投資金5,000円

◆チーム立ち上げとプランニング（話し合い活動）

○話し合いの内容

- ・夏野菜（トマト、とうもろこし、枝豆など）の生産と販売
- ・生産量と売り上げの見通し
- ・企画書と予算案づくり
- ・家での手伝いアルバイト計画など

育てやすい作物にするか、家で作っていないものにするか、ターゲットを誰にするか、資本金のうち、いくらまで使うかなど議論白熱！

野菜の生産と販売のリスクを考え、取り入れた活動。

家庭の協力を得て、手伝い1時間につき100円取得。

積み立て貯金の方法をとるため、貯金通帳の学習と通帳作りを体験

○企画書と予算案づくり

◎お金を投資してもらうことを目的に、説明できる企画書を作成する学習活動

してみたいこと（企画書）

6月2日（金） 所属またはグループ名 スマイル組④
 テーマ 修学旅行のお土産を自分たちの力で作る。
 トマト、えだまめ、とうもろこしを育て、いさを開き、お家の人たちに買ってもらう。その利益をみんなで分け、お土産のたいにする。

よい土をつくるために必要なものを考えたり、苗を扱う店から情報を得たりして企画書を作成。これを持って、子どもたちは、いざ校長先生のところへ。ひと通り説明した後、突然の質問にしどろもどろ……。その後、ようやく許可を得て、生産活動開始。めざすは、投資金以上を稼いで、お小遣いにする事。

要求金額（予算案）

買いたいものの名前	単価（円）	数量	金額（円）
とうもろこしの苗	70	20	1400
トマトの苗	55	14	770
えだまめの種	200	1袋	200
たい肥(大)	426	2袋	852
肥料(小)	380	1袋	380
せいかい(小)	298	1袋	298
消まう品 <small>(アルバイト開始)</small>			1,100
合計			5,000円

●評価

- ①野菜の苗の価格など、それぞれが調べてきたことをもとにして、よりよく計画を立てることができたか。
- ②進んで話し合いに参加し、いろいろな意見を発言することができたか。

(2) 作物を植えて、育てよう



6 / 5

お金がかかっているものを
植えているのだと思いました。
早く大きく育てて欲しいので、
水をたっぷりあげました。とう
もろこしたちが大きな実を实
らせたら、その分、私たちが
んばって売りたいです。

児童の感想より (抜粋)

作物管理は、朝、昼、放課後など空いて
いる時間を利用。8月下旬の収穫をめざ
して希望が膨らむ。

- 評価：①願いの達成に向けて、一生懸命に作物を育てていたか。
②発生した問題に対して、工夫して解決しようとしたか。

(3) 「さあ、収穫だ。」と思ったけれど・・・

◆大失敗を生かせ



収穫したとうもろこしをしょ
うゆ味で焼く付加価値をつけ、1
本350円で販売する予定だっ
たが、とうもろこしの苗の代金
1,400円、早くも損失。

期待していたとうもろこしが、大
失敗。早速、緊急会議。

「長雨の日照不足が原因だろう。」

「世話が足りなかったのでは。」

「動物に食べられた跡が・・・。」

など、いろいろな原因が考えられた。

近所の畑がサルに荒らされたとの
情報も飛びかい、不安がつのった。

結局、さまざまな原因が重なった
と思われ、自然を相手に利益をあげ
ることの難しさを体験した。

「こうなったら、せめてトマトにか
けよう。」と、畑の周囲にネットを張
り、成功に向けて誓い合う。

- 評価：①収穫の状況やトマトの様子を参考に、話し合いを通して値段を設定しようとしたか。
- ②魅力ある商品について考え、販売促進や消費者のためにできることを工夫し、実践できたか。

(4) 販売開始と売上帳簿作り



トマトといっしょに、生産者のコメントと「お声を聞かせてください」アンケートを入れて販売開始。

ようやく販売にこぎつけ、張りきる子どもたち。

まるかじりしました。小さくてすぐに食べることができました。新鮮で、ほんのり甘かったです。皮がかたかったです。

消費者の声より

八代産無農薬トマト
あまーいくん
コメント
無農薬にするのは大変でした。葉っぱに虫がついたり実が虫にくわれたりしました。大変だったけど今は、虫がなくなつてうれしいです。ぜひおもしろいと思います。
生産者 志きなみ
八代小5、6年のみんな

今日、お母さんにトマトを買ってもらいました。150円もらったとき、うれしくなりました。

お母さんは、風呂からあがって食べていました。おいしそうだったので、ぼくも食べてみました。少し、すっぱい気がしました。

児童の販売日記より(抜粋)

- 評価：販売活動を通して感じたさまざまな事柄を、表現することができたか。

- 観点：①販売に向けての自分の思いや願い
- ②販売のときの様子やお金もらったときの気持ち
- ③買った人や食べた人の反応とそれに対する自分の気持ち
- ④課題や新たな願い、など

(5) 振り返ろう

野菜作りの反省

残金かた、たの883円といらしくなせだといふことに悲しくなりました。しかも入すの赤字帳員が約823円(残金とほぼ同じ)も登ったといふことにも深く反省しています。

理由は、世言番がたことや育て方を勉強していなかったこと、植える時期が早かったことも理由になります。

利益に恵まれたことや無農薬がたずかた、たことはしょうがたかおた。他の理由は自分達で克服できたのではいかと思いまは連帯責任。

トマトが行き届かたからた人達にとて申訳ないとい反省しています。

残金 133円 + 売上
750円 = 883円
一人 823円の返済

利益を上げる難しさ
投資家への責任

自己破産と社会的な責任
(信用) についての学習へ
発展
○金融広報委員会発行
「きみはリッチ？」使用

消費者への責任

新たな課題
「どう対処していけばよいか」

児童の反応 (アイデア)
「おわびの手紙を書いて、あやまりに行く。」

「原因をしっかりと説明して、あやまる。」

●評価: 今までの活動を通して学んだことや気づいたことなどを追求しているか。

おわび

さま、シーズン中には

トマトの注文をくださり、ありがとうございます。ところが、苗を植える時期が遅かたり、わたしたちの世話か足りなかたりして、うまく収かすることかできませんでした。せうか注文してくださたのに、大変ご迷惑をおかけしました。ごめんなさい。

せめて、この手紙とともに、わたしたちの写真を受け取ってください。

平成15年10月22日
5・6年生



7. 最後に

野菜を育て、収穫し、利益を上げることの難しさだけでなく、思わぬハプニングによって魅力ある商品について考えたり、税金や自己破産などについて学習したりすることができ、学びを広げることができた。特に、児童の「野菜作りの反省」文に見られるように、いくら小さな経済活動でも、大きな責任を伴っているということに気づくことができたのは、何よりの収穫であった。結局、旅費については、手伝い(家庭アルバイト)の収入や自分の貯金、保護者の助け等を借りて出発することになった。